

トランプ発言：我々は第三世界の国のようだ、もし選挙人団が「不正」選挙結果を、そのまま確認するならば私はWHを去る

Infowars ニュース
November 27, 2020

ドナルド・トランプ米大統領は、もし選挙人団が 2020 選挙で、ジョー・バイデンの勝利を確認するならば、私は「確実に」ホワイトハウスを明け渡す、と言った。しかし、広範囲な詐欺の申し立てに関しては、負けを認めることを拒否すると言った。

「我々は大規模な詐欺があったことを知っているのだから、勝利を譲るのは非常に辛いことだ」と、トランプは木曜日、ホワイトハウスの記者会見で言った。しかしつけ加えて、選挙人団がバイデンの勝利を確認するのは、「間違い」ではあっても、自分はその決定を受け入れると言った。

しかし、それは勝ちを譲ることかと聞かれると、大統領は「いや、全くそういうことではない」、ただ、勝利者が公的に確認されれば、負けを認めることに合意するということだ、と言った。

ほう——トランプ大統領は、もし選挙人団がバイデンの勝ちを確認するならば、「確実に」、ホワイトハウスを去ると言ったのだ。

彼は続けて、アメリカを第三世界の国にたとえた。

彼は、繰り返し、大統領選挙の深く浸透する（pervasive）詐欺を主張し、郵送による投票システムでの不正の主張を指摘し——今年のパンデミックの中で、それが特に有利に働いた——またソフトウェアのグリッチ（故障）や裏口投票、また地方の選挙事務所の不正行為を指摘した。

しかし全国に起こった多数の訴訟事件があるにもかかわらず、トランプ・チームはまだ、それらの告発を証拠立ててはおらず、そのほとんどは、法廷から放り出されたままである。

多数のメディアが、勝利に必要な 270 代表者数を獲得したと言って、バイデンの勝利を宣言したが、選挙人団は 12 月半ばまで、結果を確定する会合をもつことはなく、トランプには数週の余裕があって、カギとなる激戦州の戦いの結果に、法的にチャレンジすることができる。

大統領は木曜日に、「現在と 1 月 20 日の間にいろんなことが起こるだろう」と警告し、就任の日に言及して、法廷闘争を続ける考えを示唆した。

オウエンは、きょうのトランプ大統領の異常に短いスピーチに、そう反応している。

[訳者 Greatchain によるコメント]

この意外な、トランプ大統領による決断には、いくつかの解釈があると思われる。一つは、ソクラテス的な「悪法といえども法には従う」という順法精神で、自分は権力にしがみついているのではないという意気を見せたこと。しかし彼は、昨年末あたりに、自分は「泥沼掃除」が終われば大統領職を去る、と言っていたから、この野放図な選挙詐欺の横行を「泥沼」と考えているとも取れる。しかしこれは責任放棄ではないであろう。彼は大統領職に留まることによって、自分が内乱や憎しみの原因になることを避けようとしている、とも解釈できるからである。彼は、法廷闘争が残っている限り、「敗北」は認めないと言っているから、筋を通してしている。

自分は筋を通して、もし国家が正式に去れというなら私は去る、というのは愛国者としてすがすがしいではないか！ それと、トランプには、この上なく理不尽なことが起こっても、それは、それを要求する何らかの神の意志による、という信仰心が働いていると思われる。これは、民主党やメディアの無神論者には、全く理解のできないことである。もう一つは全く推測だが、彼の尊敬するプーチン大統領の影響があるのではなかろうか？ プーチンはやはり大統領を辞めたが、それは発展的解消を意図したものだだった。